

## 第1回 東日本大震災支援全国ネットワーク 常任世話団体及びチーム長合同会議 議事録

1. 開催年月日：2011年4月7日（木）

2. 開催場所： 社会福祉法人 中央共同募金会 会議室

3. 出席者： 総数 11 名（事務局を除く）

### ◇ 出席代表世話人（3名）

栗田暢之 NPO 法人 レスキューストックヤード

田尻佳史 認定 NPO 法人 日本 NPO センター

山崎美貴子 「広がれボランティアの輪」連絡会議

### ◇ 出席常任世話団体（6名）

森本勝也 公益財団法人 日本青年会議所

阿部陽一郎 社会福祉法人 中央共同募金会（兼 資金チーム）

池本修悟 NPO 法人 NPO 事業サポートセンター（兼 情報チーム）

松原明 NPO 法人 シーズ・市民活動を支える制度をつくる会（兼 制度チーム）

関口宏聡 NPO 法人 シーズ・市民活動を支える制度をつくる会（兼 制度チーム）

藤岡恵美子 NPO 法人 国際協力 NGO センター（兼 国際チーム）

### ◇ 出席チーム（2名）

中川和之 株式会社 時事通信社（広報チーム）

今井麻希子 株式会社 yukikazet（広報チーム 兼 情報チーム）

### ◆ 欠席常任世話団体（5団体）

東京災害ボランティアネットワーク

公益財団法人 日本財団

日本生活協同組合連合会

日本赤十字社

特定公益増進法人 財団法人 日本 YMCA 同盟

## 4. 議事

### 【議題1】報告事項

#### **ガイドラインチーム**

Ver.2 を HP に掲載。状況の変化に合わせて今後も引き続き変更を。作成者へのフォローも必要か。

#### **資金チーム**

チームのML 立ち上げる。今後は JCN の予算確保などを考え議論を進める。

#### **制度チーム**

明日開催される新しい公共推進会議にて、政府としての対応一覧が出される。WEB 等で確認頂きたい。

#### **地域チーム**

近日中に ML の立ち上げの呼びかけを行う。各地のネットワークを中心に今後の連携などを検討する予定。

#### **ユースチーム**

学生ボランティアの現地ボラについて、ガイドラインを策定中。ガイドラインチームとの調整の必要有り。

#### **国際チーム**

英語情報の発信については、情報チームと英語チームとの間で役割分担・調整の必要有り。事務局及びチーム間で調整を行う。

#### **広報チーム**

各社からの取材の調整をメールベースで調整。今後の広報チームの進め方は今後議論。

#### **情報チーム**

情報チームについては、労働負荷が大きい。また地図データについては、ウェブサイト公開した直後から問い合わせが増加する可能性がある。公開後含め対応方針について要検討。

地図データについては、毎日更新する程度のデータ整備を行いたいと考えている。現在、大学生のボランティア 10 名程度の協力を受けて情報確認を進めている。

できる限り取りこぼしのない情報を集約し、それを継続するにはチーム運営体制と事務局体制の整備と両方を合わせて検討する必要がある。

## 【議題 2】 検討事項

### 事項 1. ネットワークへの参加の呼びかけについて

#### (1) 現在の参加団体募集のための広報について

現在、参加団体・協力団体合わせて 329 団体が参加（4 月 7 日時点）。

参加希望者から、会員と協力団体との区別に関し、電話での問い合わせが有る。現状では、NPO やボランティア団体などは、会員として参加してほしいと説明している。

JCN としての情報発信は、現在ウェブサイトをベースに実施している。活動内容の周知に向けて、広報ツール（パンフレット等）の作成も含めて引き続き検討。

#### (2) 被災地の団体の世話団体就任の候補について

被災地の団体については今すぐに対応することは難しいことが想定されるため、今後の検討事項とする。被災地の災害ボランティアネットワークなどに会員になってもらい「地域ネットワークチーム」などとして連携してもらってはどうか。

### 事項 2. 今後の動きと役割分担等について

#### (1) 政府・各省庁との定期協議について

第 2 回定期連絡会議を 4 月 19 日（火）の 16:00～18:00 に実施することで確定。会場は「日本青年会議所会館 5 階」。

#### (2) 新チームの設置について

新チームの設置については、しばらくは現在の 8 つのチームを中心に進め、新たなテーマとしての対応が必要であれば、今後検討する。

### **事項 3. 事務局体制および常任世話団体とチームの役割分担について**

事務局体制の確立が急務。事務局 1 名では負荷が大きい。また参加団体が 350 団体と当初の想定以上に多く、参加団体（会員団体）や各チームのケアも必要であり、その労力がさらに大きくなることが予想される。

事務局の作業量はチームでの活動が活性化すればするほど増加する。この点も加味すべき。

事務局を安定化させるためには人が必要で、そのためには、JCN としての資金を確保することが必要。今後は、会員にも協力金という形で資金協力を依頼することも考えたい。

JCN が果たす役割が明確になり、活動成果が現れれば資金調達も容易になる。活動成果を現すことが先決。

常任世話団体に対して、今後の資金計画を次回以降に提示することとしたい。については各チームの活動内容とアウトプットイメージを共有したい。また、事業の見通しを持つためにも、チーム長から半年間のロードマップイメージと予算について提案をいただく方向で各チーム長に依頼する。チーム長への依頼は事務局から行う。

## 5. その他

次回の常任世話団体会は、省庁との第 2 回定期連絡会議の終了後、4 月 19 日（火）18:30～同会場の 4 階会議室にて行う。